

マダラ稚魚の腹鰭抜去標識の有効性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-08-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 手塚, 信弘, 荒井, 大介, 島, 康洋, 桑田, 博 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010453

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



マダラ稚魚の腹鱗抜去標識の有効性

手塚信弘・荒井大介・島 康洋・桑田 博

マダラ稚魚に平均全長 33 ~ 116 mm で鱗抜去を、平均全長 43 ~ 116 mm でアンカータグを、平均全長 64 ~ 108mm でループタグを装着した場合、装着後 8 日目の生残率は鱗抜去区、アンカータグ区、ループタグ区の順に高かった。平均全長 73 ~ 76mm に標識を装着し、観察開始後 151 日目の「一目で標識の判別が可能な個体の割合」は、アンカータグ区で 100 %、鱗抜去区で 88 %、鱗切除区で 56 %、焼印区では 0 % であった。アンカータグはマダラの放流後の成長に伴い体内に埋没する可能性が考えられ、これらの結果を総合的に判断すると、マダラ稚魚の外部標識には鱗抜去が最も適していると考えられた。

水産技術, 1(1), 73-76, 2008